訪ねてみよう！ くろのじょうかまち

黒野城下町 岐阜市

航空写真 岐阜市教育委員会提供

遺構（いこう）

① 黒野城跡（岐阜市史跡）

黒野城跡は黒野大地の南端に位置する。加藤貞泰が居城した本丸跡で、規模は約 110m 四方の方形。その土塁は高さ約 5m、幅約 15m の堀に囲まれ、昔の面影を残している。入口は枡形虎口（ますがたこぐち）で織豊系城郭の特徴がある。現在の標柱付近に石垣に囲まれた城門と橋があった。土塁上の北西と南東隅には櫓（やぐら）が設けられていた。

城門南側の土塁・公園・橋は、昭和時代に造成されている。

平成 25 年度から発掘調査が進められており、平成 26 年度、入口部分にて黒野城で初めて石垣列が確認された。

神社（じんじゃ）

① 多賀神社

創建は 800 年程前と推定。城を守る宮になる。明治に多賀神社、諏訪神社、神明神社を合祀する。

樹齢 750 年の大杉（神木）は、伊勢湾台風で倒木。祭神は、伊邪那岐命（いざなぎのみこと）。

寛永 12 年（1635）以来の棟札 34 枚が拝殿に掲げられている。

④ 明善寺・忘筌学舎跡

浄土真宗本願寺派。慶長 2 年（1597）堂が創建され、阿弥陀如来画像を安置する。明治 5 年（1872）の学制発布前から寺子屋があり、現在の黒野小学校の前身である。

本堂の格天井絵（100 枚）は、今川の伊原與三平（よさべい）画号宝水・明治 3 年生まれ）が描いた。

⑤ 超勝寺・転深坊跡

浄土宗。天正 13 年（1585）開基。転深坊（天神坊）跡は、加藤貞泰城の とき三ノ丸揚手守護の仏堂となる。慶長 15 年（1610）、米子へ移封の時、住職二世定山は本尊と共に米子へ移った。その後、三世林太が再興する。

寺院（じいん）

① 黒野別院跡

慶長 15 年（1610）加藤貞泰は城下町繁栄のため正木御坊を黒野拙所に移転させ、黒野御坊と称した。

明治 10 年（1877）黒野別院とした独立。門前町として繁栄した。

黒野別院の本尊阿弥陀如来像が跡地の黒野あそか花に安置。

② 光順寺

浄土真宗本願寺派。寛永 9 年（1632）光順寺の寺号を受け、本願寺御留守居職を代々拝命し、明治 10 年（1877）黒野別院設置に協力（本堂を本願寺に寄附）した。現在の山門、鐘楼は黒野別院から移築。

③ 専長寺

浄土真宗本願寺派。文明年間（1469～1486）、木田村に創建されたが、慶長 15 年（1610）2 月、加藤貞泰より城下町繁昌のため、移転を請われ木田から現在地に引越した。

堂（どう）

① 薬師堂（黒野城跡前バス停）

慶長 2 年（1597）黒野城の鬼門に薬師堂が建立されたが、加藤貞泰の移封後、八代山薬師寺と改め黒野町に移った。その後、廃寺となったが、元禄 13 年（1700）現在地に建立。小野正法寺の末寺で、本尊は薬師如来。

② 観音堂（あそか苑東南）「城堀から出た観音様」

宝暦 7 年（1757）、城堀の泥中から引き揚げた聖観音像（左）を網掛観音と伝わる。寺が兵火で焼失の折、投げ込まれたものと推測。

右は天明 2 年（1782）、干ばつのとき堀をさらえていた百姓が発見の雨宝童子。いずれも佐野幸八利定のとき堂を造立し、守り続けている。（一般公開していません）

注意・車が通れない狭道です。徒歩、自転車で散策しましょう。
・黒野城跡に駐車場はありません。下記のご厚意により見学者に限り駐車場が利用できます。
P1 約 5 台 全日利用可 二ノ丸資料館（私設）
P2 約 20 台 土・日・祝日利用可 平成医療専門学院駐車場 但し駐車禁止の場合もある。自己責任で駐車願います。

発行／「黒野城と加藤貞泰公研究会」 第 2 版 2014.11
facebook の kuronojyo を検索してください
メールアドレス kurono_jyo@yahoo.co.jp
後援／ 黒野地区自治会連合会・黒野まちづくり協議会
印刷／ ヨツハシ株式会社

加藤左衛門尉貞泰（1580～1623年）（大洲曹渓院蔵）

蛇目紋馬標（大洲八幡神社蔵）

大纏・大馬印　旗

加藤貞泰と黒野城

加藤貞泰は、天正八年（一五八〇）、加藤光泰（一五二七～一五九三）の嫡男として近江国磯野村（滋賀県）に生まれる。父光泰（のち近江・甲斐・信濃国二十四万石・山梨県）が朝鮮の役で死去した後、文禄三年（一五九四）十五歳で家督を相続し、美濃国黒野四万石に封じられ黒野城を築いた。

慶長五年（一六〇〇）の関ヶ原の役では、始め西軍に属したが、後、徳川家康の先陣として働き、本領を安堵された。

城下町を整えると共に、治水事業（尉殿堤）を行い、領内の生産を高めたが、慶長十五年（一六一〇）二万石を加増され、伯耆国米子（鳥取県）六万石に封じられ、黒野城は、わずか十六年の短期間で終わる。

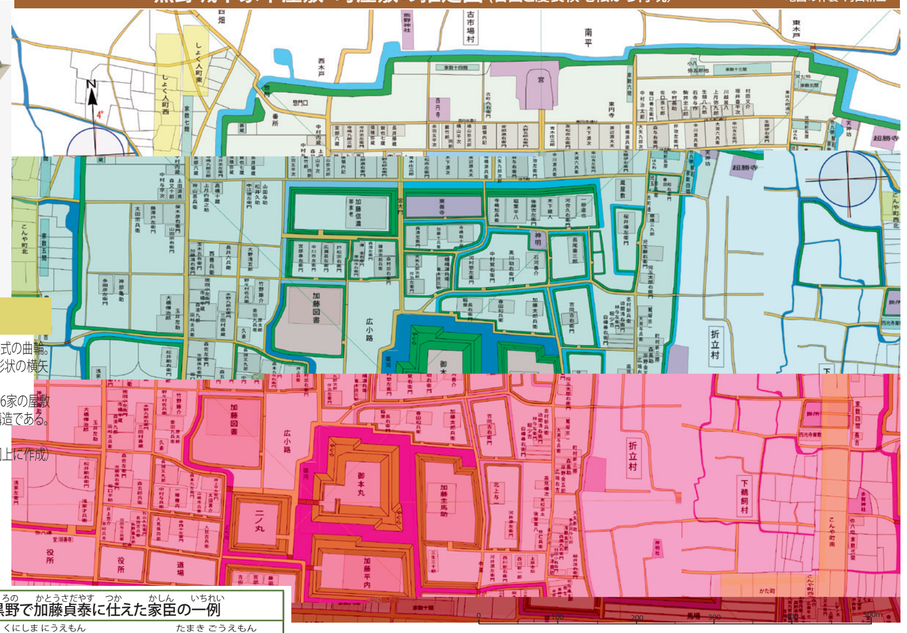
その後、元和三年（一六一七）、大坂の陣の功績により伊予国大洲（愛媛県）六万石へ封じられた。元和九年（一六二三）、江戸において四十四歳で死去した。大洲藩の加藤家は、明治維新まで二百五十年続いた。

黒野城と城下町ジオラマ

ジオラマ作製・平井昭彦

黒野城下家中屋敷・町屋敷の推定図（古図と慶長検地帳から再現）

地図の作製・河口耕三


南平
古市場村
西本戸
東本戸
宮
寺門
番所
加藤四書
広小路
折立村
下鵜飼村
こんや町北
こんや町南
加藤主馬助
御本丸
二ノ丸
役所
道場
加藤主内
加藤主殿
加藤主馬助
井ノ上
中道
平成医療専門学院
平野総合病院
十六銀行
代官屋敷
かた町
寺河道すじ
高河ちょと
観音堂
常楽寺跡
多賀神社跡
村前
貴久家
松月庵
岐阜県新庁舎
岐阜県警察本部
岐阜市役所
岐阜市民会館
岐阜市立図書館
岐阜市立歴史博物館
岐阜市立美術館
岐阜市立中央図書館
岐阜市立中央公民館
岐阜市立中央小学校
岐阜市立中央中学校
岐阜市立中央保育園
岐阜市立中央児童館
岐阜市立中央幼稚園